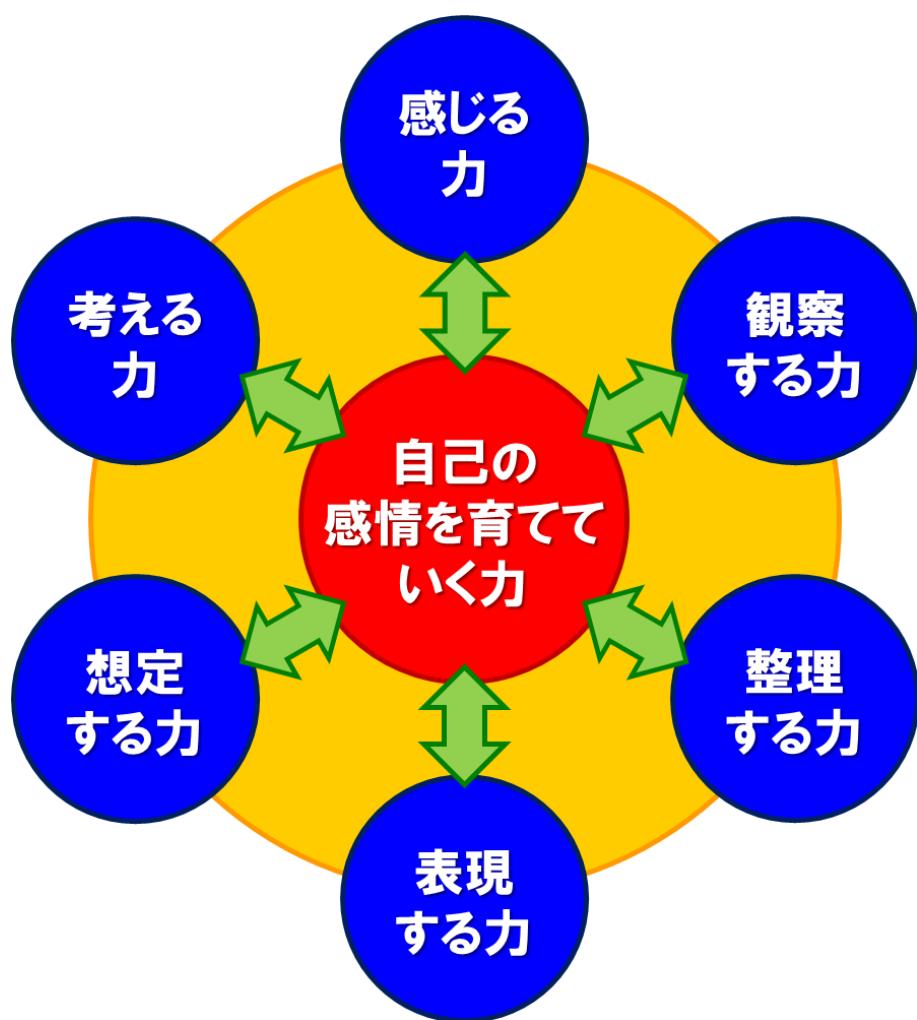


被虐待児の感情の言語化・内省化・対象化を育む 「感情基盤」醸成 事業報告書



ソーシャル・アーティスト・ネットワークのこれまでの取り組み

ソーシャル・アーティスト・ネットワークの活動について

弊団は、「ソーシャル・アート(アート思考・アート活用による社会貢献:社会問題解決を図るべく、様々な人が主体的に織り成す英知・技能・行動・表現が有機的に連携しあつ渾然一体となった創造的な活動)」を掲げ2009年より活動をスタートし、2012年4月に一般社団の法人格を取得しました。

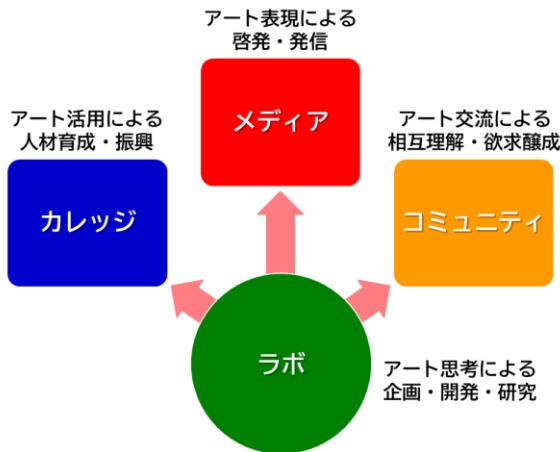


図1:ソーシャル・アートの構成

主活動※の一つとして、児童養護施設・民間団体・有志個人の皆様と連携し、子ども達(特に被虐待児)の「感情基盤」醸成に取り組んでおります。

また、関連活動としてアートを活用した児童虐待防止(オレンジリボン)啓発活動も行っています。



これまでの児童養護施設で暮らす子ども達との関わり

弊団は、これまで下記の活動を通じて子ども達とふれあい、親交を深めてまいりました。

①アート教室(川崎愛児園・恩寵園・調布学園)
アーティストの協力で毎月推進させていただきました(音楽・絵画)。



②図書環境構築(恩寵園)
子ども達に園内図書係を担ってもらい、情報誌・コミックなど毎月提供させていただきました。



③退所者との共同創作・啓発活動(川崎愛児園)
声優希望の退所者とともに啓発劇の制作と発表イベントを開催しました。



④子ども新聞クラブ(川崎愛児園・恩寵園)
地域のボランティアと共に子ども達が市長・局長への気持ち取材と新聞制作をすべく、新聞記者ワークショップを開催し、子ども達の人の気持ちへの関心を高めました。



※他に「ノーマライゼーション」や「国際交流」についての活動も実施しております。

ソーシャル・アーティスト・ネットワークが推進する「感情基盤」醸成

子ども達の「社会性」の課題を「感情」形成における「経験」の不全として捉える

弊団はこれまでの活動を通じ、施設職員の皆様との交流の中で、下記のような(退所後の)子ども達の「社会性」が課題であることを知りました。

- ・就職先に馴染めず直ぐに退職、その後転々とし定着できないまま事態を繰り返す
- ・上辺の優しさに気づけず望まない妊娠、出産後育てられず施設に預ける

これらは確かに社会性に課題があると考えられ、在所中にソーシャル・スキル・トレーニング(SST)を受けることで解決できることも多いと考えます。しかし、実際にSSTを実践しても改善が見られない子ども達が少なからずいるのも現状です。

そこで、弊団はソーシャル・スキル修得以前にすべきことがあるのではないか?と強く考えるに至りました。SSTを「行動を考える」ものと位置付けるとすると、その修得には「感情を考える」ことができている前提であることから、「感情」形成に課題の本質があると考えるに至ったのです(図3)。

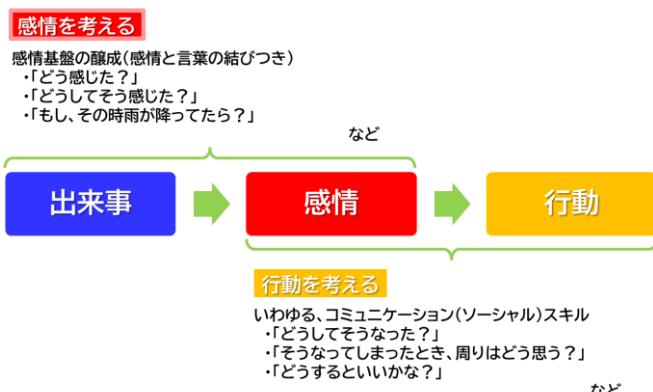


図3:「感情」を考える

「感情」は、そもそも幼少期から継続的に周囲の大人とのふれあいから育まれるもので(図4)。

虐待に遭った子ども達は、この「経験」が著しく不足していると考えられます。

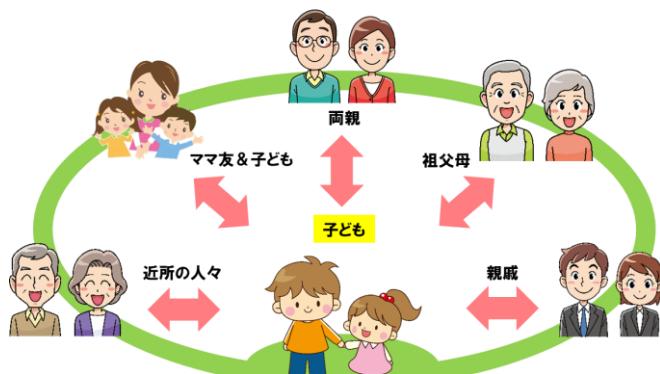


図4:子ども達の感情形成環境

このように考えていくと、1つの方向性が見えてきます。子ども達の課題を、これまでの「治療」や「トレーニング」に加え、「経験」という切り口で捉えることで、一般市民でも(いえ、「だからこそ」と言った方が良いかもしれません)できる「子ども達の心の土台作り」が見えてきます。すなわち、それは子ども達の感情形成における「経験」機会を提供するということに他なりません(図5)。

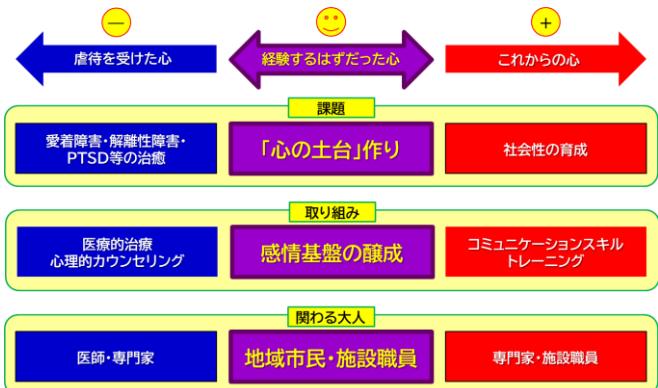


図5:3つの子ども達の心の応援

「感情基盤」モデルの考案

上記の経緯より、弊団は子ども達の心の土台の応援を「感情基盤」醸成という言葉で説明しています。「感情基盤」という言葉は、弊団の造語ですが、児童養護施設で暮らす子ども達とのふれあいの中、子ども達の感情についての課題を6つの要素(感受・観察・想定・思考・整理・表現)に分類し、概念モデルとしたもので、「自己の感情を育てていく力」を育むべく各要素が協調連動するものとなっております(図6)。弊団は、このモデルをコンセプトの中核に据えて様々な施策を展開して参ります。

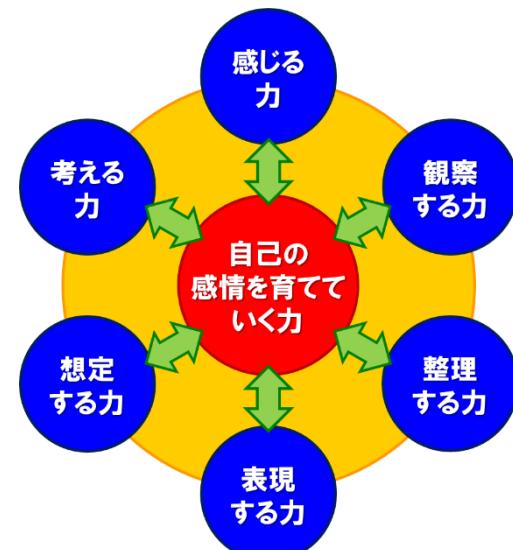


図6:「感情基盤」概念モデル

コロナ禍で「川崎愛児園」との取り組みで発見できた本質的なこと

コロナ禍でも実施可能な「感情基盤」醸成策としての「とーかん日記」「こころ日記」

2019年度から開始した「感情基盤」醸成策として川崎愛児園での「お楽しみ交流サロン」(図7:子ども達と職員の皆様、そして地域のボランティアが集まって、お楽しみ会的な交流イベントでのふれあいとその時の「感情」の振り返りをシートを通じて図る取り組み)が、本年度は新型コロナによりその実施を見送りとならざるを得ませんでした。



図7:川崎愛児園「お楽しみ交流サロン」

また、このサロンは川崎愛児園ならではの環境から誕生したもの(図8)で、他施設への適用が望ましいことか?という懸念もありました。そして、先のコロナ禍となり、本質を変えることなく取り組み全体の再考を余儀なくされるに至ったのです。

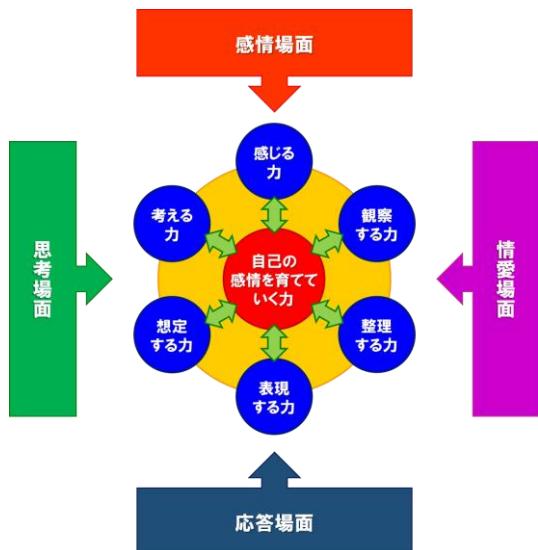


図8:川崎愛児園の「感情基盤」醸成モデル

その結果、サロンを「お楽しみ交流新聞」に代替し、子ども達には間接的でありながらも地域ボランティアとの繋がりを感じてもらいつつ、取り組みの重点を「とーかん日記」にシフトしました(図9)。これが功を奏し、日記というシンプルな構造の中に「感情基盤」醸成の基礎的かつ本質的なものが見え、他施設への紹介が可能となりました。



図9:お楽しみ交流新聞(「とーかん日記」と融合)

「感情基盤」醸成における基礎的かつ本質的なこと:「感情」と「言葉」を結び付ける

信頼できる大人(職員・ボランティア)が見守る中、正解を求められることなく、自身の感情を言葉に結びつけ、そこから始まる試行錯誤的な経験の積み重ねが子ども達の「感情基盤」醸成に繋がります。

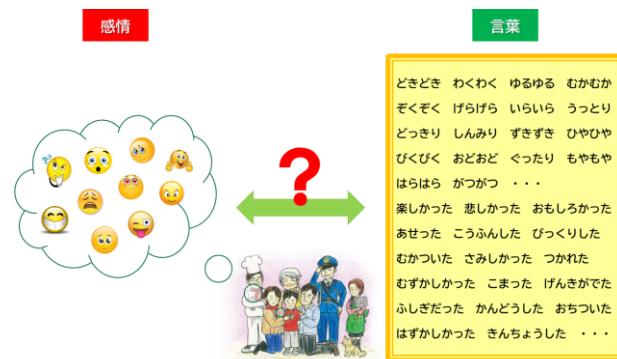


図10:言葉と感情を結び付ける

「とーかん日記」: 川崎愛児園での養育活用

子ども達の気持ちをどう理解し、個々に合った対応の仕方を考えるきっかけとなっており、今後の支援策に活かされています(P. 5参照)。



図11:「とーかん日記」の活用

「とーかん日記」(小学生向け、「お楽しみ交流新聞」内) & 「こころ日記」(幼児向け)

「とーかん日記」創刊号(わくわく・どきどき・うきうき)

「とーかん日記」10月号(もやもや)

「とーかん日記」11月号(ありがとう)

おはようございます。毎日元気で楽しく過ごすための毎日新聞

とくへん日記(12月)

今日の「自分におけるエール」

名前

1 月曜日

2 火

3 水

4 木

5 金

6 土

7 日

8 火

9 水

10 木

11 金

12 土

13 日

14 月

15 火

16 水

17 木

18 金

19 土

20 日

おはようございます。毎日元気で楽しく過ごすための毎日新聞

とくへん日記(12月)

今日の「自分におけるエール」

名前

1 月曜日

2 火

3 水

4 木

5 金

6 土

7 日

8 火

9 水

10 木

11 金

12 土

13 日

14 月

15 火

16 水

17 木

18 金

19 土

20 日



おはようございます。毎日元気で楽しく過ごすための毎日新聞

とくへん日記(12月)

1月のテーマ

自分にエールをおくろう!



おはようございます。毎日元気で楽しく過ごすための毎日新聞

とくへん日記(12月)

「おはよう」とどんな言葉があるのか?

- 1 ガンバレ!
- 2 朝にしないで!
- 3 あさはさあさ
- 4 お腹ってある!
- 5 大丈夫よ!
- 6 一昨日やろうよ
- 7 ハンディ!
- 8 その様子

うれしい! 元気がでる! やる気100%



言われたら、やる気になる言葉を自分にかけよう!

たとえば、「**しゃくじいほーばー!**」**「その様子!」**
「明日はいい日! 朝起きてよ、ガンバレ!」
「しゃくじいほーた! トドマ!」
「ピーマン、おさとーとやべれるよ!」

さあ! とくへん日記、毎日書いてポイントをゲットしよう!



めざせ！気持ちマスター！（ピギナ一級 Level.1）		2020年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業	
[なまえ:]		管理人 チェック	
日にち	しつもん	かお	どうして？（理由）
月 3/8	朝ごはんを食べた時の気持ちは？	😊😊😊😊😊	
火 3/9	宵前の前の気持ちは？	😊😊😊😊😊	
水 3/10	15時～朝ごはんまでの気持ちは？	😊😊😊😊😊	
木 3/11	朝起きた時の気持ちは？	😊😊😊😊😊	
金 3/12	朝ごはんを食べた時の気持ちは？	😊😊😊😊😊	
土 3/13	10時～朝ごはんまでの気持ちは？	😊😊😊😊😊	
日 3/14	朝ごはんを食べた時の気持ちは？	😊😊😊😊😊	
今週の気持ち			
かお	点数	いつ？ なんの時？	どうして？
	点数		どんな気持ち？

「とーかん日記」12月号(エール)

「こころ日記」

児童養護施設アンケート結果

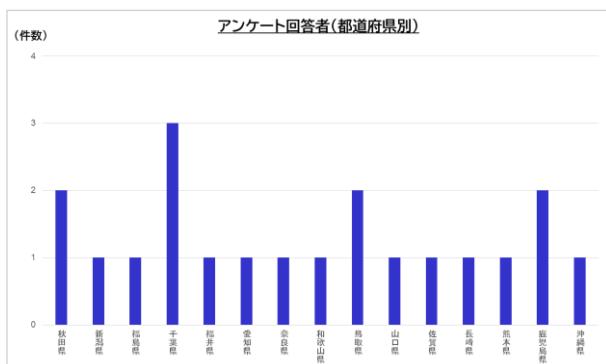
全国の児童養護施設へのアンケートを実施させていただきました

2020年11月にメールアドレスを公開されている全国の児童養護施設・施設長様宛に『子ども達の「感情と言葉」の結びつきについて』のアンケートを実施させていただきました。ご協力いただいた皆様には心より感謝申し上げます。

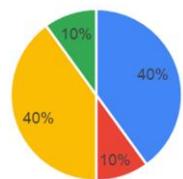
アンケートの回答(有効回答数20)からは、多くの関心(弊団の取り組みに「とても関心がある」+「まあ関心がある」:95%)をいただくことができました。しかし、子ども達の感情育成について「何も実施していない」施設が多い(42%)ことも分かりました。

また、「実施している」+「これから実施予定」としている施設(47%)の多くはSSTやそれに類するものを利用していることも分かりました。

詳細については、弊団までお問い合わせいただけましたら幸いに存じます。

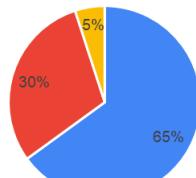


(1) 貴園では、子ども達の「感情と言葉」を結び付ける取り組みをされていらっしゃいますか？



■①既に実施している ■②実施する予定がある
■③今のところ実施する予定はない ■④その他

(3) 弊団の子ども達の「感情と言葉」を結び付ける「感情基盤」醸成の取り組みにご関心がございますか？



■①とても関心がある ■②まあ関心がある ■③あまり関心がない

「川崎愛児園」職員様へのアンケートを実施させていただきました

ここ日記は2019年度から、と一かん日記はコロナの影響で2020年度後半からのスタートと日が浅く、明確な効果が出てくるのはさらに時間を要すると考えておりますが、川崎愛児園の職員様へアンケートをさせていただいたところ、職員全員(回答者数:17名)が「子ども達に少し変化や気づきがある」と回答くださいました。下記にその内容の一部をご紹介させていただきます。

Q: 子ども達についてどんな変化や気づきが見受けられましたか？

初めは「楽しかった」だけの感想に対して「何が？」と聞くと答えられないことが多かったけど、今は以前よりも理由を伝えられる(考えられる)ようになってきた。【幼児担当】

一日をふりかえって楽しかったことなどを自分のことばで表現する力がついていっているのではないかと思います。【学童女子担当】

最初のうちは、子どもたち同士で1日の終わりに日記を書く際、書き忘れていることがあれば、「まだ書いてないよ。」等と声を掛け合っている事もありましたが、日記を書くのが習慣になってきていると感じました。【学童男子担当】

一日を通してどのようなことがあったのか振り返り、本人なりに「こんなことがあった！！！」という気づきが見受けられた。【小規模担当】

一日の生活で見えていない部分や(学校生活や友だちとのやり取り)「そう思っていたんだ！！！」という発見があった。【小規模担当】

Q: 子ども達に取り組みを続けてもらうことで、将来どんなことが期待できるかお聞かせください

毎日の日記を積み重ねていくことで、感情表現を学び豊かになることが期待されるのではないかと感じます。【幼児担当】

自由な発想力を持つことで、自分(子ども自身)の自信にもつながっていくのではないかと思います。また、相手の気持ちを考えたり、自分の気持ちが整理できるようになってほしいと思います。【学童女子担当】

とりあえず取り組んでいる様子もあり、メンタル面や心の面という点で大きな変化や気づきという点での成長はなかなか難しいかなとは思うが、続けることにより気づきや成長は望めるかなと思います。人や出来事に対しての興味を持つことに繋がるかも。【小規模担当】

図12:全国の児童養護施設アンケート結果(一部)

専門家の声・今後の取り組みについて

専門家の方々から高い評価をいただくことができました

渡辺弥生 様 法政大学 文学部 心理学科
教授 教育学博士



専門は、発達心理学・発達臨床心理学・学校心理学。子どもの感情や社会性の発達について、研究活動に加えてソーシャルスキルを高める教育実践を展開。講演会の講師も務める。
ベネッセ教育情報サイト(育児・子育て)「感情を豊かに表現できる」子どもを育てる方法」を執筆。

著書に『子どもの「10歳の壁」とは何か?』(光文社)、『まんがでわかる発達心理学』(講談社)。『子どもの感情表現ブック』(明石書店)、『イラスト版子どもの感情力をアップする本: 自己肯定感を高める気持ちマネジメント50』(合同出版)など。

感情が生まれるプロセス(感情基盤)が虐待に遭った子ども達にとって必要だという視点から、ノウハウを培い、蓄積・確立しつつ継続的に活動している点を高く評価しています

酒井健 様 大手前大学 現代社会学部
心理学専攻 准教授



東京都立大学 大学院 人文科学研究科
心理学専攻博士課程 単位取得退学

- ・臨床心理士
- ・公認心理師
- ・日本臨床催眠学会理事

個人心理カウンセリングや養育的カウンセリングではなかなかできない取り組みである点を高く評価しています

感情基盤醸成カードゲーム「カンガエル」

偶然できた文に対する質問に考えて答えることを楽しむゲームを開発しました。順次新しいゲームを開発して参ります。

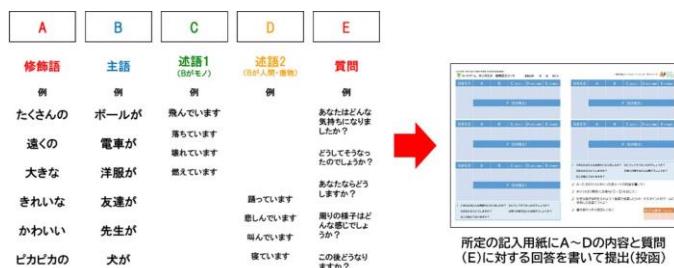


図13:感情基盤醸成カードゲーム「カンガエル」

「こころ日記」「とーかん日記」に+αを!
「かんじょうきばんの一と」を制作しました

「感情基盤」醸成の集大成としての第1弾として、「かんじょうきばんの一と」を制作しました。「こころ日記」や「とーかん日記」で自分の気持ちを言葉にしていくことが習慣となってきた子ども達向けに、さらに楽しく「感情基盤」醸成を取り組むことが出来る事を目的としたものとなっております。内容は基礎・基本的なものとなっております。順次、第2弾の企画制作の検討もしてまいります。



図14:「かんじょうきばんの一と」イメージ

※サンプルのご希望や内容についての詳細などは、お気軽に弊団までお問合せ下さい。

全国の社会的養護下の子ども達に

弊団は2021年度より全国の児童養護施設や里親団体の皆様に向け、「感情基盤」醸成を必要とする子ども達に「こころ日記」「とーかん日記」の取り組みを提供していきたいと考えております。既に、先駆けて神奈川県・千葉県・愛知県・沖縄県の児童養護施設での取り組みが予定されています。

ご関心がいただけましたら、お気軽にお問い合わせください。



図15:全国の子ども達に向けて



一般社団法人ソーシャル・アーティスト・ネットワーク
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町2-4-5 杉商ビル8F
Tel : 03-6740-1650 Fax : 03-5283-8440 e-mail : info@socialartists.net
HP : <http://www.socialartists.net>



オレンジリボン運動支援団体 No.1418